



平成21年台風第9号災害の 経験・教訓を未来につなぐ防災教育

兵庫県 佐用町役場企画防災課 防災対策室

平成21年8月9日、佐用町は、台風第9号の影響を受け、1時間に89mm、4時間では200mmもの急激な雨が降りました。この雨で20人の尊い命が奪われ、多くの家屋が損壊する被害が生じました。町は、第三者委員会による検証結果等に基づき、災害の悲しみを二度と繰り返さぬよう、住民と行政が一緒になって、安全・安心なまちづくりに取り組んできました。

そのような中、平成27年度からは、小学校における防災教育に力を入れています。それまでは、災害で児童が亡くなっていることや、過酷な被害を経験している児童がいることなど心的ストレスの懸念があったため、防災教育の実施に消極的でした。しかし、災害から6年が経過し、将来を担う世代に防災教育を推進することについて、町教育委員会と共通認識を持ちました。このことから、町内全ての児童が必ず小学校で防災教育を受けて卒業することができることを目指して、事業を開始することとしました。

実施に当たっては、防災心理学が専門の兵庫県立大学木村玲欧准教授（現在は教授）に協力を依頼しました。木村准教授に、小学校教諭が実施しやすい指導案や教材を作成いただくことで、最終的には、小学校教諭が一人でも防災学習を運営でき、全ての児童の防災意識を醸成させることを目標としました。

作成いただいた指導案には、災害につい

て「わがこと意識」を醸成するための要素として、実際に被災体験をされた地域住民に参加していただき、被災したまちを歩く授業を盛り込んでいます。まずは、色の塗られていないハザードマップを用い、危険な個所を意識して色塗りし、その後、当時の記録写真を現場で見て、体験談を聞き、自分たちで色塗りしたマップにメモを取りながら歩きます。まち歩き後は、班ごとに振り返りを行い、気づきを共有しています。

一方、校区内に大きな被害がない小学校でも、授業を行うための工夫もあります。そういった小学校ではまち歩きは難しいので、木村准教授には、災害時に発生する事象などを描写したカード教材を使った授業を考えていただきました。カードには、土砂災害によって農地に土砂が流入する写真や、ブロック塀の倒壊、電話が集中して繋がりにくい状況などのイラストが描いてあり、このカードにより、災害時にどのような困難が生じるのか理解する授業を実施しています。また、この他に、被災住民の体験についてインタビューしたDVD教材を使った授業なども実施しています。

これらの指導案は、短ければ5時間で授業が終わり、教諭の負担とならないように作られています。多くの小学校で総合的な学習の時間などを利用し、児童たちが設定した課題についての調べ学習などを行うことで、防災教育を深化させています。マイ防災マニュアルやマイハザードマップを



被災した町中で話を聞く児童（5年生）



被災した川沿いで話を聞く児童（4年生）



カード教材を用いた授業の様子



災害後に入庁した若手職員が行う災害対応訓練の様子

作製している学校など、これまでの学習を
発展させる取組を実施しています。さら
には、調べた内容をケーブルテレビで放
送して、町民に広く発信する学校も出
てきており、町民に波及させる取組
みへとつながっています。

そして、この防災教育の取組は町職
員の訓練や研修にも波及しています。
平成21年以降大きな災害が発生して
いない中、平成29年には、災害後に入
庁した職員が約1/4を占めることとな
りました。職員の災害対応力向上の課
題に取り組む上で、実際に災害を経験
してきた身近な先輩職員から当時の
経験談を聞く取組や、入庁した1年目
の職員が参加する災害対応図上訓練の
取組などを行っています。

さらに、住民への防災教育については、

ハザードマップの全戸配布やケーブル
テレビでの情報発信、防災をテーマに
した寸劇を高年大学の講座で行うなど
、防災意識の向上を図っています。

災害から10年の節目に、町内すべ
ての小学校において防災教育を実施す
ることができ、平成27年度から令和2
年度までの6年間で、総勢500人を
超える児童が防災に関する教育を受
けました。今後も、これらの取組を定
着させて、将来を担う世代に確実に
つなげていきたいと考えています。